

2007年4月●テーマ展示

# 「ヨーロッパを飛び出したクラシック音楽」

*Classical music meets different cultures*

～両大戦間の音楽を中心に～



企画♪小関康幸（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

期間●4月5日－5月2日

場所●図書館ブラウジングルーム/AV資料室

# 「ヨーロッパを飛び出したクラシック音楽」

*Classical music meets different cultures*

～ 両大戦間の音楽を中心に ～

レクチャーコンサートで演奏された作品の作曲家 8 人の肖像や自筆譜の複製などを展示します。また、影響を与えた文化など、創作に関連深い写真なども紹介します。



CONTENTS

マヌエル・デ・ファリャ……………	2
ダリウス・ミヨー……………	3
エイトール・ヴィラ＝ロボス…	4
コンロン・ナンカロー……………	5
ジョージ・ガーシュウィン……	5
モーリス・ラヴェル……………	7
フランシス・プーランク……………	8
イーゴル・ストラヴィンスキー…	9

企画・解説 小関康幸（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

## マヌエル・デ・ファリャ

スペインの作曲家。作曲をスペインの民族主義的音楽の創始者フェリーペ・ペドレルに師事し影響を受けた。1907年から1914年にかけてパリに滞在し、ドビュッシー、ラヴェル、アルベニスらの知己を得た。第一次大戦の勃発とともにスペインに戻り、歌曲集〈7つのスペイン民謡〉(1914-15)、バレエ音楽〈恋は魔術師〉(1914-15)、ピアノと管弦楽の3つの交響的印象〈スペインの夜の庭〉(1909-15)、バレエ音楽〈三角帽子〉(1918-19)などを作曲した。スペイン内乱のあとアルゼンチンに渡り、晩年を過ごした。



Manuel de Falla (1876-1946)

### 演奏曲目

#### 七つのスペイン民謡

#### Siete canciones populares españolas

原曲は歌曲で1914-15年にかけて作曲。詞は、すべて作者不明の古謡による。全体は〈ムーア人の衣装〉〈ムルシア地方のセギディーリャ〉〈アストゥリアス地方の歌〉〈ホタ〉〈子守歌〉〈カンシオン〉〈ポロ〉の7曲からなる。

パウル・コハンスキーによるヴァイオリン編曲など、器楽曲としても編曲され演奏されることがある。民族性ゆたかな旋律の美しさ、リズムのおもしろさなど聴きどころは多い。

### 展示資料

#### "Siete canciones populares españolas"

Madrid : Manuel de Falla Ediciones, 1993 請求記号 H35-089

ファリャの歌曲〈7つのスペイン民謡〉をヴァイオリンとピアノ用に編曲した楽譜。

#### "La vida breve"

[Granada] Manuel de Falla Ediciones, 1997 請求記号 F21-596

ファリャ〈はかなき人生〉の自筆譜のファクシミリ版(マヌエル・デ・ファリャ文庫所蔵の自筆譜XXXV A1)。

#### Gonzalo Armero and Jorge de Persia "Manuel de Falla : his life & works"

[London] : Omnibus Press, c1999 請求記号 J88-735

ファリャに関する最新の研究書の一冊。

### 録音資料

六つのスペイン民謡(ヴァイオリン編曲版は第2曲目が省略された6曲)

Ezequiel Larrea(ヴァイオリン)、Dana Protopopescu(ピアノ) 1990年録音 請求記号 XD13341

## ダリウス・ミヨー

フランスの作曲家。パリ音楽院でルルー、デュカ、ジェダルジュ、ヴィドールらに師事。1917 から 18 年に、文官詩人として名高いポール・クロデルの外交官秘書としてブラジルに滞在。18 年 11 月、フランスに帰国後コクトーのサークルに誘われ「6 人組」の一員となった。またジャズに刺激を受けた作品も残したし、多調性を用いた作品なども多い。作品は〈屋根の上の牝牛〉(1919)、〈エッフェル塔の花嫁花婿〉(1921、6 人組の合作)、〈世界の創造〉(1923)、〈スカラムーシュ〉(1937)など多数。



Darius Milhaud (1892-1974)  
左がミヨー  
“My happy life”より

### フランス六人組(Les Six)

第一次大戦中から 1920 年代前半のフランスで活躍した作曲家のグループで、メンバーはルイ・デュレ(1888-1979)、アルテュール・オネゲル(1892-1955)、ダリウス・ミヨー(1892-1974)、ジェルメーヌ・タイユフェール(1892-1983)、フランシス・プーランク(1899-1963)、ジョルジュ・オーリック(1899-1983)の 6 人。同時代の新古典主義音楽に含まれる傾向を示している。

#### 演奏曲目

スカラムーシュ第 3 曲 ブラジレイラ(ブラジルの女)

Brazileira

作品は〈ヴィフ〉〈モデル〉〈ブラジレイラ〉の 3 曲からなる組曲で、1937 年に作曲された。〈ブラジレイラ〉はサンバのリズムが聴かれる軽妙な作品。

モリエールの戯曲〈空飛ぶお医者さん〉のための付随音楽(1937年)から改作された。

#### 展示資料

"Le bal martiniquais : pour orchestre"

Los Angeles : Delkas Music, c1946 請求記号 E5-052

(マルティニク島の舞踊会)の作曲者自身による管弦楽編曲版。原曲は 2 台ピアノ用の作品。

Darius Milhaud "My happy life"

London ; New York : M. Boyars, 1994 請求記号 J81-836

ミヨーの自伝の英語版。

#### 録音資料

カティア・ラベック、マリエル・ラベック(ピアノ) 1989 年録音 請求記号 XD17604

小原孝、河原忠之(ピアノ) 1999 年録音 請求記号 XD43384 他

## エイトール・ヴィラ＝ロボス

ブラジルの作曲家。ほぼ独学で作曲を学んだ。1905 年よりブラジル各地を旅行し、さまざまな種類のブラジルの大衆音楽を収集し、分析するなどして、それらをたとえば(ショーロ)(第 1 番～第 14 番、追補 2 曲 1920-29 年)などの作品において反映した。彼は 25 年頃よりパリで関心が寄せられ、40 年代半ばにはアメリカで人気を得た。他には 12 の交響曲、17 の弦楽四重奏曲、(ブラジル風パッサ)ほか多数の作品を残している。



H.Villa-Lob (1887-1959)  
“Heitor Villa-Lobos”より

### 演奏曲目

ショーロス補遺第1番 : モデレ

Choros Bis No.1 : Modere

ショーロス (Choros) は、都会化された民俗舞曲に基づく、ブラジル風のセレナードとも言うべき音楽である。ヴィラ＝ロボスは、第 14 番まで+2 曲のショーロスを遺している。このシリーズも作品ごとに楽器編成が異なっており、時には都会風の洗練されたダンス・ミュージック、時には荒々しい音型を大胆に使いエネルギッシュな舞踏と、さまざまな表情を見せる。補遺は2曲とも 1928 年に作曲され、楽器編成はヴァイオリンとチェロの二重奏。

### 展示資料

"Ouverture de l'homme tel : de la Suite suggestive"

Paris : M. Eschig, c1954 請求記号 E7-846

オーケストラ伴奏つき声楽作品だった原曲から、作曲者自身がオーケストラ用に編曲した。展示されているのは自筆譜のファクシミリ版。

David P. Appleby "Heitor Villa-Lobos : a life (1887-1959)"

Lanham, Md : Scarecrow Press, 2002 請求記号 J96-083

ヴィラ＝ロボスに関する最新の伝記の一冊。

Lisa M. Peppercorn "The world of Villa-Lobos in pictures and documents"

Aldershot, England : Scolar Press ; Brookfield, VT, USA : Ashgate Pub. Co, c1996 請求記号 J86-494

写真、コンサート・プログラムなどをふんだんに盛り込んでヴィラ＝ロボスにアプローチした図書。

### 録音資料

Giancarlo Pareschi(ヴァイオリン)、Watson Clis(チェロ) 1977 年録音 請求記号 XD3098

江口有香(ヴァイオリン)、江口心一(チェロ) 2000 年録音 請求記号 XD44594

Henri Bronschwek(ヴァイオリン)、Jacques Neilz(チェロ) 1957 年録音 請求記号 XD53360-53365

---

---

## コンロン・ナンカロー

アメリカ生まれのメキシコの作曲家。はじめシンシナティ音楽院で学び、のちにボストンでニコラス・スロニムスキー、ウォルター・ピストン、ロジャー・セッションズらに師事。内乱時のスペインに赴きスペイン共産党に入党したことからアメリカへの帰国を拒否され、1940年、メキシコシティへ移住した。ナンカローにはリズムの複雑でテクスチャが多様な作品が多く見られる。作品は〈ピアノのためのソナチネ〉(1941)、〈自動ピアノのための習作〉ほか。



Conlon Nancarrow (1912-1997)  
"The music of Conlon Nancarrow"より

### 演奏曲目

タンゴ?

Tango?

ピアノ独奏用の作品で1984年作曲[Kyle Gann の "The Music of Conlon Nancarrow"によれば1983年作曲]。イヴァ・ミカショフの委嘱による。

3つの声部がそれぞれ8分の6拍子、8分の4拍子、8分の5拍子と指定されていて、ppで始まる。それが曲の後半に向けてクレシェンドしていき、いったん弱奏に戻ったかとおもうと再び強奏になり終わる。これがタンゴと呼べるのか？ また、演奏できるのか？ という意味をこめてタイトルの末尾に「？」が付けられたようだ。

### 展示資料

"Study No. 37 for player piano "

Santa Fe : Soundings Press, [198-?] 請求記号 G21-060

ナンカローが関心を注いだ自動ピアノのための練習曲の1曲(自筆譜)。

Kyle Gann "The music of Conlon Nancarrow"

Cambridge ; New York, NY, USA : Cambridge University Press, 1995 請求記号 J81-897

ナンカローについて現在のところ、もっともまとまった研究書。

### 録音資料

Ursula Oppens(ピアノ) 請求記号 XD12404

渋谷淑子(ピアノ) 1997年録音 請求記号 XD40372

渋谷淑子(ピアノ) 1998年録音 請求記号 XD54599

---

---

## ジョージ・ガーシュウィン

アメリカの作曲家、ピアニスト、指揮者。1912年から師事したチャールズ・ハンピツァーを通じてショパン、リスト、ドビュッシーの音楽に親しんだ。1914年、学校を中退してピアニスト兼楽譜販売員となり、1916年には初めてポピュラーソングの楽譜出版を果たした。やがて〈スワニー河〉(1919)で大成功を収め、1924年ころからクラシック音楽作曲家としても活躍した。作品には〈ラブソディ・イン・ブルー〉(1924)、〈パリのアメリカ人〉(1928)、オペラ〈ボーギーとベス〉(1934-35)など。



George Gershwin(1898-1937)

### 関連パネル アフリカ系アメリカ人によるジャズ演奏

20世紀初頭からニューオーリンズでディキシーランド・ジャズが生まれ、その後ジャズは急速に合衆国に広まった。20年代には、(ポーギーとベス)の舞台となったチャールストンで同名のダンスが誕生し、30年代にはピアノ音楽のブギ・ウギがポピュラーになる一方、ビッグ・バンドによるスウィング・ジャズが全盛をきわめた。



ルイ・アームストロング(1900-71)のグループ。サッチモの愛称で知られ、22年、シカゴに進出して注目をあびた。

### 演奏曲目

(サマータイム)「ポーギーとベス」より

“ Summertime ” Porgy and Bess

(ポーギーとベス)は1934年に完成し、翌35年にオーケストレーションを施し、初演は同年にボストンで行なわれた。アメリカ合衆国南部のチャールストンを舞台に、足の不自由なポーギーと娼婦ベスの愛を描いた物語。

序曲に次いで歌われる(サマータイム)は、若い母親が赤子をあやしめながら歌う有名な曲。

(誰かがわたしを見つめてる)「オー、ケイ」より

Someone to watch over me

1926年に作曲されたミュージカル(オー、ケイ！(Oh, Kay!))の中のナンバー。歌詞はジョージの兄、アイラ。

### 展示資料

Richard Walters "The singer's musical theatre anthology. Soprano. Volume 3"

Milwaukee, WI : Hal Leonard Corp., [2000] 請求記号 F23-952

ミュージカル・ナンバーがたくさん収められた楽譜です。

(誰かが私を見つめてる(Someone to watch over me))ってどんな曲だっけという人は、見てください。

"An American in Paris"

Secaucus, N.J : Warner Bros. Publications, c1987 請求記号 H29-592f

有名な(パリのアメリカ人)の自筆スコアをファクシミリにした楽譜。

Howard Pollack "George Gershwin : his life and work"

Berkeley : University of California Press, c2006 請求記号 J109-998

ガーシュウィンに関する最新の研究書の一冊。

### 録音資料

中村均一(サクソフォン)、白石光隆(ピアノ)、他 1998年録音 請求記号 XD45954(Sax編曲版) 他

### 映像資料

シンシア・ヘイモン(ソプラノ)他 1995年録画 請求記号 VE200 他



## モーリス・ラヴェル

フランスの作曲家。パリ音楽院でエミール・ベサール、ガブリエル・フォーレらに師事した。作品にはバレエ音楽《ダフニスとクロエ》(1909-13)、第一次大戦で没した戦友たちを追悼した《クーブランの墓》、有名な《ボレロ》(1928)など多数。また管弦楽の魔術師ともいわれ、ムソルグスキーの《展覧会の絵》の編曲は広く知られている。ドビュッシーと並べ称されることもあるが、作風は、より古典的な曲形式によっているものが多く、スペイン音楽やジャズの影響もみられる。



Maurice Ravel (1875-1937)

### ラヴェルが書いた手紙

ラヴェルがルネ・ド・サン＝マルソー夫人に宛てて書いた手紙(1898年8月20日付)。ちかぢか最新作の歌曲を提供できるだろうと書いている。

### 関連パネル バオバブの樹

パンヤ科。学名: アダンソニア (Adansonia)。アフリカでの呼称であるバオバブの名で有名な植物。アフリカに1種、オーストラリアに2種、マダガスカルに7～9種分布する。謎めいた木で、樹齢は1000年や5000年を生きるという説がある。成長が非常に早く、年輪がはっきりしないように、材がもろく乾くと幾層にもはがれ、不安定で数えにくい。大地に根を張って立ち上がり、空いっぱいに樹冠を広げる巨大な樹木は、世界の諸民族の間に天を支えるイメージを生んできた。このバオバブはいろいろな伝説が生まれる場であるとともに、村の集会所や裁判所になったりして、村人たちの重要な生活の場でもあった。火に強いバオバブは、森が焼き払われても生き残る。ラヴェルの《マダガスカル島民の歌》中第3曲、〈休息〉に「繁った木の下に」とあるのは、バオバブのことだろう。この木はサン・テクジュベリの『星の王子様』にも登場することで知られている。



3月下旬、マダガスカル島のムルンダヴァで

### 演奏曲目

#### マダガスカル島民の歌

#### Chansons madecasses

この作品は1925 - 26年にかけて作曲。歌詞: エヴァリスト・ド・パルニーの同名の詩集にもとづく。全3曲で〈ナアンドーヴ〉〈アウア!〉〈休息 - それは甘く〉。〈アウア!〉には、白人に用心しろという表現が含まれているが、マダガスカルはアフリカの東南、インド洋上にある島国で、当時はフランスの植民地だった。

なお、声、ピアノ、フルート、チェロという編成は作品の依頼主クーリッジ夫人の指定だった。

### 展示資料

#### "Chansons madecasses"

Paris : Durand, [1926] 請求記号 H9-219

ラヴェル(マダガスカル島民の歌)のスコア。



Maurice Ravel ; transcription de concert, Sorabji "Rapsodie espagnole :  
for piano solo"

[Bath, England : Sorabji Archive, 19--] 請求記号 G28-790

ラヴェルの(スペイン狂詩曲)をソラブジーがピアノ用に編曲した楽譜。

Theo Hirsbrunner "Maurice Ravel, sein Leben, sein Werk"

Laaber : Laaber-Verlag, c1989 請求記号 C47-197

比較的最近のラヴェルの伝記(ドイツ語)

### 録音資料

ゲスティ・シルヴィア(ソプラノ)他 1968-69年録音 請求記号 XD9933

カタリーナ・カルネウス(メゾ・ソプラノ)他 1999年録音 請求記号 XD56563 他

## フランシス・プーランク

フランスの作曲家、ピアニスト。リカルド・ピニユスにピアノを、シャルル・ケ克蘭に作曲を師事した。作品にはバレエ音楽(牝鹿)(1924)、オペラ(ティレジアスの乳房)(1944)、同(カルメル派修道女の会話)(1953-56)、同(人間の声)(1958)ほかピアノ曲や声楽曲など多数にのぼる。作風は軽妙で旋律に富むが、重厚な和音を取り入れたものもあり、また複調の響きも好んだ。



Francis Poulenc (1899-1963)

右がプーランク

“My happy life”より

関連パネル ガムラン(インドネシア)

インドネシアやマレーシアで行なわれる、旋律を奏でる打楽器を中心とした大規模な合奏形態のこと。宗教儀式、演劇、舞踊の伴奏として使われる。1889年、パリ万国博覧会にガムラン楽団が客演し、ヨーロッパのクラシック音楽界に衝撃を与えた。ラヴェルの(マ・メール・ロア)、プーランクの(2台のピアノのための協奏曲)など、その影響が作品に反映されているものも少なからずある。



### 演奏曲目

2台ピアノのための協奏曲 二短調

Concertos, pianos(2), orchestra, D minor

1932年作曲。同年初演。作品には、きびきびしたリズムをもった楽章もあれば、モーツァルトの様式を模したラルゲットの楽章が配されたりもしている。また曲の一部には、1931年にガムラン音楽に初めて接したプーランクが、その影響を反映させながら作曲している箇所もある。

### 展示資料

"Concerto pour piano et orchestre.

Paris : Editions Salabert, c1950 請求記号 G9-363

(ピアノとオーケストラのための協奏曲)の楽譜だが、2台ピアノ用に編まれている。

## "Un joueur de flute berce les ruines : for solo flute"

London : Chester Music, c2000 請求記号 H39-136

プーランクの最初期の作品の一つらしく、自筆譜のファクシミリ版の楽譜が出版されている。フルート独奏用の小品。

## Sidney Buckland and Myriam Chimenes "Francis Poulenc : music, art and literature"

Aldershot ; Brookfield, Vt : Ashgate, c1999 請求記号 J89-828

プーランクに関する最近の研究書の一冊。

### 録音資料

カティア&マリエル・ラベック(ピアノ)、小澤征爾指揮、ボストン交響楽団 1989年録音 請求記号 XD17604  
エリック・ル・サージュ、フランク・ブラレイ(ピアノ)、ステファン・ドネーヴ指揮、リエージュ交響楽団 2003年録音  
請求記号 XD53386 他

## イーゴル・ストラヴィンスキー

ロシアの作曲家。リムスキー＝コルサコフに作曲を学んだ。作風は生涯を通じて何度か変化し、とりわけ原始主義時代の〈火の鳥〉(1910)、〈ペトルーシュカ〉(1911)、〈春の祭典〉(1913)の3つのバレエ音楽は有名である。〈プルチネッタ〉(1920)から始まる新古典主義時代は、バロック時代や古典派の時代のような簡素な作風を示すようになり、50年代に入ってからセリー主義も取り入れている。



Igor Stravinsky (1882-1971)  
1937年チャップリンと遊ぶストラヴィンスキー  
"Stravinsky in pictures and documents"より

### 演奏曲目

協奏曲変ホ長調「ダンバートン・オークス」

Dumbarton Oaks Concertos, orchestra, E flat

この協奏曲は、1937 - 38年にかけて作曲された。曲名は、作曲を依頼したR. W. プリス夫妻が住んでいたアメリカのワシントン郊外にある地名から採られており、そこで初演された。この時期のストラヴィンスキーは、新古典主義による作風を示しており、この協奏曲も小編成の18世紀のコンチェルト・グロッツを意識した作り方を示しており、そこに近代的な要素を加えている。

### 展示資料

"Dumbarton Oaks, 8.5.1938 : Concerto in Eb for chamber orchestra"

Mainz ; New York : Schott, c1938 請求記号 E10-931

(ダンバートン・オークス協奏曲)のミニチュア・スコア。

"L'oiseau de feu : fac-simile du manuscrit Saint-Petersbourg, 1909-1910"

Geneve : Minkoff, 1985 請求記号 H25-376f

1909年から10年にかけてストラヴィンスキーが書いた〈火の鳥〉の自筆スコアのファクシミリ版。

## Vera Stravinsky and Robert Craft "Stravinsky in pictures and documents"

New York : Simon and Schuster, c1978 請求記号 C39-293

たくさんの写真にくわえ、プログラムや手紙なども交えてストラヴィンスキーにアプローチした図書。

### 録音資料

シャルル・デュトワ指揮、モントリオール・シンフォニエッタ 1991年録音 請求記号 XD29862

イーゴル・ストラヴィンスキー指揮、ダンバートン・オーケストラ 1948年頃録音 請求記号 XD34867 他

### 参考展示図書

田村史子、吉田禎吾文、管洋志写真 『祭りと芸能の島バリ』

東京：音楽之友社, 1984 請求記号 C39-644

Clive D. Griffin "Afro-American music"

London : Dryad, 1987 請求記号 C46-609

三善晃ほか著 『中学音楽音楽のおくりもの. 2・3 上』

東京：教育出版, 2002 請求記号 J96-727

図書館展示 4月 2007

## 「ヨーロッパを飛び出したクラシック音楽」

*Classical music meets different cultures*

～ 両大戦間の音楽を中心に～



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2007.4.16 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:高田涼子・三宅巖